

自転車 の基礎情報



平成29(2017)年10月20日 No. 23

シティ車 タイヤの適正な空気圧と車輪の振れ

シティ車の車輪が上下、左右に振れている状態を、一度は目にしたことがあると思います。確かに見た目は悪いですがはとりにあえず走るののでいずれは修理をしよう、と後回しにしている方はいないでしょうか。車輪が振れると、走行中安全でないばかりでなく、急に危険な状態に陥ることもあり得ます。しかし、タイヤの空気圧を適正に保つことにより、車輪の振れをある程度抑える効果が期待できます。

車輪の振れと一口にいても、縦振れと横振れに大きく分けられます。縦振れは車輪が回転するときに上下に振れている状態です。横振れは左右に振れている状態で、通常ならば横振れに気が付くことが多いと思います。

車輪が振れる主な原因ですが、通常ではシティ車の長期間にわたる使用が考えられますが、これは致し方ありません。ところが、タイヤに空気が適正に入っていない状態で段差を勢いよく乗り越えたときなどでもリムが変形してしまうことがあります。リムが変形すると車輪全体のバランスが崩れ、スポークの一部に力が加わってしまいます。つまり、強く引っ張られているスポークと緩んでいるスポークがひとつの車輪の中に同時に存在しているのです。この状態が続くとニップルの破断やスポークの折損にまで至ることもあります。

次に、車輪が振れてしまったときの悪影響ですが、当然のことながらシティ車の乗り心地が悪くなり、車輪自体も弱くなります。そして、ブレーキは本来の性能を発揮できません。前輪を例にすると縦振れの場合、キャリパーブレーキのブレーキシューがタイヤの特定の箇所に接触してしまい、走行中にタイヤが破損する恐れが増します。横振れであると、走行中にブレーキシューとリムの間隔が広くなったり狭くなったりするためブレーキの操作が安定しません。さらに、車輪が大きく横に振れると、フロントフォークや泥除けのステー(金属の細い棒)に接触することによりタイヤが摩耗します。ライトを照らすために発電しているダイナモの回転も滑らかではなくなります。

ちなみに、自転車販売店で車輪の振れはある程度修理をすることができますが、リムのダメージが深刻である場合には修理ができなくなり車輪を交換しなければならなくなります。

このように、車輪の振れをできる限り防ぐためには、面倒かもしれませんが、タイヤの空気圧を適正に保つことが大切、ということが理解できるかと思います。

忙しいときでも、せめてタイヤに空気だけは入れるようにしてください。タイヤに空気を入れるだけでも本当に違います。自転車販売店で空気入れを借りることができる場合もあるのですが、エアーコンプレッサーを使用している店舗もあるので対応が異なります。自転車販売店のスタッフに必ず一声かけ、確認してからタイヤに空気を入れるようにしてください。

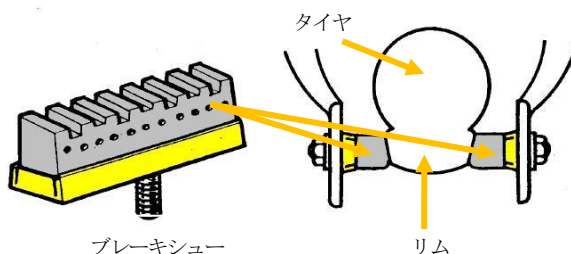
次号は、平成29年11月20日に発行を予定しています。

<発行>

一般財団法人自転車産業振興協会

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階

電話：03-6409-6922 FAX：03-6409-6868 <http://www.jpbi.or.jp>



キャリパーブレーキで前輪にブレーキをかけた正常な状態